第14回ISO/TC195
（建設用機械及び装置）
シカゴ国際会議報告

標準部会

1. はじめに

ISO/TC195では、建設機械の中、土工機械（ISO/TC127）、クレーン（ISO/TC96）及び昇降式作業台（ISO/TC214）を除く残りの全ての機械の規格化を担当する国際専門委員会であるが、その第14回の本委員会及びその作業グループの国際会議が平成16年5月11日～14日米国シカゴの中心街にあるDouble Tree Guest Suitesの会議室で開催された（写真-1）。

メンバーである日本からは、「コンクリート機械等に関する国際規格共同開発調査」事業（経済産業省施策）の一環として以下の5名が日本代表として出席した。

大村 高慶：TC195/WG4日本主席代表（国内コンクリート機械関係委員会委員長）
養安 豊彦：TC195日本代表（国内コンクリート破砕機関係委員会委員長）
川合 雄二：TC195/WG4コンペーナ（国内委員会委員；日本建設機械化協会）
阿部 裕：TC195及びWG7日本代表（国内委員会事務局；日本建設機械化協会）
柴田真理子：TC195/WG4コンペーナ補佐（日本規格協会コーディネータ）

今回参加の主目的は、前述事業の委員会で日本が負担し、TC195/WG4に提出している6件のコンクリート機械関係の規格案に関し、日本がコンペーナとして主導的に審議、検討、調整を進め、その最終段階での仕上げを行うことと、前回提案が不承認となり、日本より再提出している「コンクリートボンプの性能試験方法」及び「環境保全」「資源の再利用化」の観点より、新たにこの事業の追加項目として提出している「破砕機の用途と仕様項目」の2件の「新業務項目提案」を説明し、メンバーの理解を得ることであった。

規格案の審議には、やや時間が足りず持ち越しになった案件があったが、今後の作業スケジュールを明確化して遅れを最小限に抑えることとなった。

2件の「新業務項目提案」の説明に関しては、特に反対はなく、6月17日期限の投票に前向きの対処を要請した。

2. 会 議 概 要

（1）ISO/TC195/WG4（コンクリート機械関係）

会議

日時：5月11日（午前、午後）、5月12日（午前、午後）

コンペーナ：川合雄二（日本）
出席者：ポーランド（2）、ドイツ（2）、ルーマニア（2）、米国（6）、カナダ（1）、日本（5）、計18名

推進中の6件の規格及び6件の新業務項目提案（以下、NWIP）について、報告、討議、検討が行われ、下記合意を得た。

① ISO/FDIS18650-1（コンクリートミキサ_1）2ヶ月以内に中央事務局よりFDISが配布され、2004年内に発行予定。

② ISO/FDIS18650-2（コンクリートミキサ_2）
2004年6月に中央事務局より発行される予定。米国ではこのDISをベースにした確認試験を行う。
③ ISO/DIS 18651（内部振動機）
　会議の席上ドイツのコメントを織込んだが、さらに日米・米国のコメントを織込んだものを幹事国にて作成、2004年9月15日までに米国のチェックを経て、中央事務局より再発行の予定。
④ ISO/DIS 18652-2（外部振動機）
　日本のコメントを織込み、幹事国にてFDISを作成する。
⑤ ISO/CD 21573-1.2（コンクリートボンプ_1）
　CDへのコメント内容について、米国が5月末までにRecommendationの形に整理し、幹事国はそれをベースにDISを作成、2004年9月15日までに中央事務局に送付する。
⑥ ISO/CD 21592-2（コンクリート吹付け機）
　CDへのコメント内容を審議しつつCDの修正を行った。これをベースに幹事国はDISを作成する（2004年7月15日まで）。
⑦ NWIP（コンクリートボンプ_2）（発表者：大村高慶）
　再提案の形で、6月17日投票締切りで提案されているが、今までの経緯・修正点を説明し、承認の目処がついた。

（2）ISO/TC 195本会議
　日　時：5月13日（午前）、5月14日（午前、午後）
　議　長：Mr. Budny
　幹　事：Mr. Roszbiewski
　出席者：ポーランド（2）、ドイツ（1）、ルーマニア（2）、スウェーデン（2）、米国（10）、カナダ（1）、日本（5）、計23名
　幹事国ポーランドの議長Mr. Szymanskiの病欠に伴い、代理出席のMr. Budnyの検挙の後、Agendaに沿って報告、討議、検討が行われ、下記決議がなされた。
① 各WG（5月12日〜13日にワシントンDCで開催されたWG6：Hand-held machinery and equipmentも含め）の議事録を承認した。
② WGのSC化に関する投票結果（N498；4：5で否決）をISOのTCサーバー（LiveLink）に載せる。
　ただしWG4のSC化については、日本がコンピーナをとることを前提に再提案することの可能性は残されている。
③ ISO/DIS 11375-7 "Building construction machinery and equipment-Terms and definitions-Part 7: Road construction and maintenance equipment"は、設計時からの状況変化に伴い、FDIS発行時に、番号変更とともにタイトルも"Road construction and maintenance equipment-Basic types-Identification and description"に変更する。
④ 日本より提案済みの破砕機に関するNWIP（投票締切り：6月17日、発表者：養安豊彦）は、対象をコンクリートに限定せず、"Mobile crushers"（"Mobile concrete crushers"ではなく）とすることを確認し、賛成の得られる見込みとなった。
⑤ 日本より提案済みのコンクリートボンプのテストに関するNWIP（投票締切り：6月17日、発表者：大村高慶）は、特に反対意見もなく、賛成の得られる見込みとなった。
⑥ 米国より提案されたRoad sweeperオペレータの操作・表示のシンボルに関するNWIPは、提案に向け進める。
⑦ 上記Road sweeperを含めたRoad building and construction equipmentを対象とした共通のシンボル（common symbols standard）も、併せて進める。
⑧ 次回第15回会議を2005年5月12〜13日にワルシャワで開催する。
⑨ Joint Working Group（ISO/TC 127 & ISO/TC 195）は、テーマ完了を確認し、解散する。
　最後に、Mr. Szymanskiの病の早期回復を祈るとともに今回の会議開催を主催・支援したAEM（Association of Equipment Manufacturers）を含めた米国メンバーの努力に謝意を表し、閉会した。

（3）ISO/TC 195 WG 5会議
　日　時：5月13日（午後）
　コンピーナ：G. Piller（ドイツ）
　出席者：米国（4）、日本（1/川合）、ポーランド（1）、ドイツ（1）、計7名
　ISO/DIS 11375-7 Basic types-Identification and description及びISO/WD 15878 Asphalt pavers-Terminology and commercial specificationsの2件の規格について各国よりのコメントについて審議し、その結果で案文を修正することとなった。

（4）ISO/TC 195 WG 7会議
　日　時：5月13日（午後）
　コンピーナ：F. Wenzel（米国）
　出席者：米国（6）、スウェーデン（1）、日本（1／阿部）、ポーランド（1）、ルーマニア（2）、計11名
ISO/WD 19433 Hand guided, walk behind vibratory plates—Terminology and commercial specifications 及び ISO/WD 19452 Hand guided, walk behind vibratory rammers—Terminology and commercial specifications の 2 件の規格について審議し、結果を Wenzel 氏が取編め各出席者に配布する。

3. 今後の見通し

各規格とも現在の状況が確認され、次ステップへのスムーズな移行が期待出来る。

WG 4 の SC 化に向けて、そのメリット等も含めて具体的な提案内容を煮詰め、再提案する予定である。

NWIP “Mobile crushers” は、6 月 17 日投票締切りで承認される予定であるが、承認され次第 WG (コンピーナ：養安豊彦氏（予定）) としての活動を開始する。

4. その他

必要なメンバーが TC サーバー（LiveLink）へアクセス出来ない、メンバー国の連絡が不明確等の不備が判明、それら不具合の解消により以後の活動の活発化が図られる。

5. 所見

ISO/TC 195 の国際会議には、日本は 1998 年に初参加したが、当時は図—1 のグラフに示すように判定規格は TR（技術報告書）1件という低調ぶりであった。

1999年米国を満足して共に P メンバーとなり、道路機械等、停滞していた規格案の検討推進を図るとともに、2000年より経済産業省の施策「国際規格共同開発調査」の一翼を担って日本発信の「コンクリート機械」関係の規格を積極的に国際規格化に努めてきた。

現在推進中の規格案が発行されることが予想される 2007 年では、合計 22 規格となり、更に建設事業の国際化にともない、「国際規格化が遅れている多種建設機械に対する規格制定」、「機械安全、環境保護等社会的ニーズに応えるための規格制定」が予定されており、この分野の活動は非常に活発化している。

一方この活動自身を支える幹事国及びこれを支援する体制は従来と全く変わっておらず、「既存制定規格の 5 年ごとの見直し」等発行済みの規格のフォローまで考えると、幹事国での作業の增加が規格化の遅れの主因ともなりかねない。

その解決策として、日本から「WG 4（コンクリート機械）、WG 5（道路機械）等、7 上の規格を有する WG は SC として TC 195 の幹事国での事務作業を SC 幹事国に委ねて省力化し、一方では無駄な工程の排除による早期規格化を図る」提案しているが、幹事国引受けを志願しているのは日本のみで、他国は、引受けに極めて消極的である。

日本としては、既にコンピーナを務めて業務内容に精通している WG 4（コンクリート機械）について SC 幹事国になることをまず検討し、本年度中の早い時期に幹事国あては提案する予定である。なお、WG 5（道路機械）の SC 化については、国内関係者の要望が強く、現コンピーナのドイツの意向及び道路機械に関心の高い米国と意見調整を取るながら次のステップとして考えることとする。

過去の 13 回に及ぶ ISO/TC 195 の国際会議は、いずれも幹事国ポーランドで行われ、今回初めて他国（米国・シカゴ）での開催となった。主催者の AEM（米国建設機械工業会）は、CECE（欧州建設機械工業）, CEMA（日本建設機械工業会）及び最近では KOCEMA（韓国建設機械工業会）とともに定期的に当該機械の工業会関国際会
議 Joint Technical Liaison Meetingを行っているので出席者の中に互いに知り合いも多く、懸念なく話すことができた。また、米国での開催であるので米国よりの出席は少なかったが、米国ペンシルバニア州の動作を知ることで、他国との協力の活性化が必要と考えられた。

なお、今回の出場では会議前、会議後の時間を利用して多くの代理者と事前に会って、その後の協力について有意味な話合いと情報交換ができた。

主なものを以下に列挙する。
1. 近年の代表として参加したISO/TC127委員会ととの打合せ（TC127とTC195の境界線にある道路機械に関する標準化に関する意見交換）
2. 米国TC195TAG委員長ほか米国主要代表者との日米意見交換（TC195活動の効率化等）
3. ドイツ主席代表との打合せ（TC195活動の効率化）

ISO/TC195幹事との意見交換（TC195活動の効率化及び各種情報交換）

今回の出張に際しては、標準委員会・ISO/TC195建設用機械及び装置委員会の委員長・瀧田直敏氏より、過去にISO/TC127/SC3議長を務められたご経験からあたりまえも多くアドバイスを戴くことができたが、WG4の議事進行、米国との協議の協議等大いに参考にさせて頂いた。

また、今回日本からの2つの新業務項目の提案（コンクリートブロック第2部、破碎機）に関するプレゼンテーションを行ったが、両委員会（大村高慶氏、貫田良彦氏）各事前準備よろしくPCプロジェクトを駆使して説明され、今回の会議の役割であった。ご尽力に深く敬意を表したい。

更に今回、財団法人日本規格協会のご好意により、コーディネータ（柴田真理子氏）を出張派遣して頂き、会議中のPC作業、議案作成委員会への参画ほか、幅広く幹事業務の支援をして頂き心から感謝する次第です。

（文責：阿部裕川合雄二）